

『第2回 メルマガ会員限定オンラインワークショップ』を開催

2022年11月5日、病院間の交流・情報交換のために第2回メルマガ会員限定オンラインワークショップを開催しました。今回のテーマは、離床CATCHの運用／活用における【アセスメント】です。ご参加の施設でどのように行っているのか、当日の様々な議論の一部をご紹介します。

離床CATCHの患者選定、機能選択について

【設定フローを使用していない病院】

判断基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 担当看護師個人の判断、パートナー同士での確認、またはカンファレンス ● 患者の行動 ● 発熱 ● 患者がナースコールを押してくれるか否か
設定フローの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ● 転倒事後での選定も多く、設定フローがあった方が良い ● 経験の浅い看護師に対しては、設定フローは必要 ● 鳴り過ぎによる業務繁忙を防ぐため適正使用の標準化は必要
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● どのような経緯を経てその時の離床CATCHの設定になっているのかが分からない ● ルールで縛ると、その場での判断に影響する可能性がある

【設定フローを使用している病院】

判断基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 起き上がり、端座位、立位保持、歩行ができるかできないかで設定を決定 動けない方は設定フローから除外
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択肢が多いと設定フローを使うこと自体に業務負担を感じるため、シンプルな設定フローとした

- 【その他】
- 転入直後の患者は、起き上がりで一旦様子を見て、鳴り過ぎるとモード変更を行う
 - 離床CATCHは身体拘束の一部とも捉えられるため、不要な患者には使わない（思い切ってOFFにする、念のためつけるを無くす、など）

【杉山良子のコメント】

転倒転落アセスメントシートを重要視しながらも、離床CATCHを効果的に使うための設定フローをどう組み合わせるかが大切。アセスメントシートも設定フローも、患者の安全を守るための最低限の標準化です。うまく運用されているか検証も必要です。また、離床CATCHを設定する場所と台数を考えるべき。ある程度限定的に使用した方が、均等配分するより使いこなせるようになります。

（病棟毎の転倒転落の発生状況と照らし合わせてみる、など）それが、離床CATCHを巧みに扱える看護師を育てることもつながります。そのうえで水平展開を図っていくとよいでしょう。



離床CATCHの設置解除について

協議して解除	<ul style="list-style-type: none"> ● カンファレンスで決めたり、受け持ちがリーダーに相談して決定 ● 週2回の転倒カンファレンスで話し合ったり、夜勤と日勤がいるタイミングで話し合いの場を設定 ● ナースコールを押せるようになってきた患者の行動特性などを判断基準に、カンファレンスで検討 ● リハビリスタッフとの協議で決定
段階的に解除	<ul style="list-style-type: none"> ● センサーを解除できそうと思ったらまず日中から解除。1～2日問題なければ夜も解除して数日様子を見て、丸1日使っていない日が数日あればOFFに ● 無駄鳴りが問題になっているため、できるだけ早くOFFにしたい。つけたまま放置にせず、夜だけ使用するなどを検討
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 設定フローの中に「センサー適用外」の項目記載があり、それによって判断

【杉山良子のコメント】

リハビリ職との共有は第一条件。鳴り過ぎはどういう場合に起きているのか？病院全体で考えていく必要があります。（多職種がどういう関わりをもっているか？➡安全管理者のマネジメント）

昼夜で設定モードは分けた方が良いでしょう。夜は色々なことが起こりやすく、退院前日の夜に転んで骨折するケースなどもあります。そのような場合には、夜だけ使ってみるのも手です。



離床CATCHの昼夜での設定について

- 24時間使っている中で「日中OFFにして夜間だけ使ってみよう」は、よく行っている
- モードを変えるよりも、思い切ってON/OFFを切り替えることを行っている
- “眠ったら付ける”、“ナースコールを押せる患者には、夜間でも切ってみる”など
- 日中「端座位」、夜間「起きあがり」など、鳴り過ぎを考慮して設定している
- 昼間は人の目も多くあるが、夜間は人が少ないぶんセンサーに頼らざるを得ない
- ONにしたら、そのまま24時間設定しっ放しというのが今までの状況であったが、昼夜での設定変更は参考にしたい



患者のADL変化に対して

変化に対応できている

- 定期的に、または状態変化があったときとルール化されており、定着している
- カンファレンス時にアセスメントシートを開いて確認している
- ADL拡大については、PTと相談しながら設定検討を行っている
- 多職種のカンファレンスや、日々ベッドサイドリハにくるPTをつかまえて話をしている
- リハビリでADLが拡大したときにその日の看護師で話し合いをして、設定を変更する



変化に対応できていない

- 術後など、状態変化が悪い方向へ向かうときの再アセスメントはできているが、良い方向（回復）に対する状態変化には適応できていない可能性がある（専門病棟ではうまくできている事例もある）
- ADL範囲が拡大したときに、細かい設定の変更ができていない
- 離床CATCHの鳴る回数が多いから、センサーを解除するなど段階的なアセスメントが弱いと思っている
- きちんと対応しきれておらず、前に倣えの実情もある
- 定期的に電子カルテ情報から引き出し、毎月1回実地調査をしているが、質の観点において「状態変化」の解釈が個々の看護師によって異なる実情がある
- 状態変化時＝手術と捉えられており、内科的には定義が難しく、明確になっていない
- 設定の標準化がまだできておらず、設定変更も個人の力量に任せてしまっている
- 設定フローがあれば「患者がこう変化したときにはこう変える」などルール作りができて、意識も高まり、教育的な効果も上がると期待している

【杉山良子のコメント】

いかに大きな傷害を残さないで退院させることができるかが最重要の目標となってきますが、その中で看護師の業務改善も図っていかなければなりません。そうすると標準化が必要。看護ケアの標準化として、決めたことを文書化する必要があります。100%の標準化はできません。半分以上がクリアできれば標準化であるという認識を持つことも大切です。

また、転倒転落を職種全体で、病院全体として守っていこうという風土づくりも重要。その土台作りとしても標準化は大切。安全管理の視点からいうと、標準化を進めていってそのうえに個別性を考えて、全体として防いでいくことが必要ではないでしょうか。

今現在使っている転倒転落アセスメントシートを活用しながら、「この項目にチェックがいたら離床CATCHを検討する」など、二段階アセスメントを推奨します。



RoomT2メルマガ会員限定オンラインワークショップは、次回2023年2月13日(月)に開催予定です。
ワークショップのご案内はメールマガジン登録のアドレスにお送りしますので、
多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

2022年10月および11月、RoomT2は3つの学会や学術集会に参加。講演や発表をさせていただきました。以下、簡単ではありますが、ご紹介させていただきます。

10月

「日本転倒予防学会第9回学術集会」 10/15-16 @パシフィコ横浜
 イブニングセミナー講演『病院内転倒予防の最新技術』
 (RoomT2副代表/パラマウントベッド(株) マーケティング部 奥 俊介)

「第51回 日本医療福祉設備学会」 10/27-28 @東京ビッグサイト
 一般演題『現場とメーカーとの連携による、新しいコトづくりに向けた活動』
 (RoomT2副代表/パラマウントベッド(株) マーケティング部 奥 俊介)

上記2つの学会では、RoomT2が関わった病院との取り組み事例の内容や、その過程で得られた新しい知見や気づき、そして、そこから結びつく物的対策（ハード）として求められていること、パラマウントベッドとしてのソリューションの進化の可能性などについてお伝えさせていただきました。また、合わせて、現場とメーカーとが協力/連携することで、課題解決に向けた新たなソリューションを創造することが可能になることも発信させていただきました。

11月

「第17回 医療の質・安全学会学術集会」
 11/26-27 @神戸国際展示場/神戸国際会議場
 シンポジウム『転倒転落事故対策の効果的な取り組みに向けて
RoomT2による実践事例の紹介と展望』
 (RoomT2代表 杉山 良子、パラマウントヘルスケア総合研究所 初雁 卓郎、ほか)

こちらのシンポジウムでは、転倒転落対策の取り組みについて、医療安全管理に関わる2病院の先生方から実践事例を紹介いただきながら、メーカーができることについてお伝えさせていただき、医療（現場）とメーカーとの連携などについてディスカッションの場をもたせていただきました。



学会参加を終えて

RoomT2では、活動を通じた、現場とメーカーとの連携による、医療安全（転倒転落）におけるさらなる課題解決に向けた取り組みを、今後も継続していきたいと考えております。引き続きRoomT2をどうぞよろしくお願いいたします。

日々の活動にお役立てください！ RoomT2公式サイト

RoomT2

検索

詳細な活動報告に加え、様々なツールも用意しております。お気軽に、ご利用ください。

